

2013年度友の会活動報告

*横尾忠則展オープニング・レセプション招待

2013年4月14日

*映画鑑賞講座

2013年4月13-16日

画家中村正義「父をめぐる旅」を鑑賞しました。

*2013年度総会

2013年5月25日

役員会 新役員紹介、10周年行事の検討をしました。

*橋本章展ギャラリートークと茶話会

2013年7月6日

堀学芸員によるギャラリートークを開催しました。

*若冲が来てくれました展 開会式・内覧会に招待され参加

2013年7月26日

*美術鑑賞講座

2013年9月6日

紺野学芸員による「もっと知りたい若冲のこと」ギャラリートークを開催しました。展示会場が延べ5万人を超えたため展示室から講堂に変更、講堂が満席になりました。終了後、講義室での友の会向け鑑賞会も一般来館者が混ざり13名の茶話会になりました。

*第1回実技講座

2013年9月28・29日

浅野アキラ講師(郡山女子短大教授)の指導により「好きな絵をハートで描く・コラージュ絵画」の実技講座を開催しました。

友の会会員のための実技講座「好きな絵をハートで描く」コラージュ絵画の制作は、浅野アキラ氏(国画会会員・郡山女子大学短期大学部教授)を迎え2日間開催、参加者は11名でした。自分自身の思い出の写真をコピーし、台紙に貼り込み、着彩するという斬新な切り口で、参加者それぞれに真剣に取り組みました。絵の拡大・縮小による効果や、組み合わせによる変化を充分楽しみました。



*研修旅行

2013年11月10日

小杉放庵記念美術館、鹿沼市立川上澄夫美術館 & 日光金谷ホテル スペシャルランチの旅の研修旅行を実施しました。小杉美術館では「美しき日本の風景 国立公園の絵画」展、鹿沼市立美術館では「畦地梅太郎と川上澄夫」展を鑑賞しました。

紅葉真っ盛りの日光へ、伊藤学芸課長さんにご同行いただき39名で出かけました。

洋画・日本画・挿絵等、幅広く活躍した日光出身の小杉放庵の画業と日光の美術を紹介するために建てら

れた小杉放庵美術館は、周囲の景観に配慮した落ち着いた建物でしたが、内部はコンサートも行うという現代的で素敵な美術館でした。放庵が国立公園制定に関わったことから日本の著名な画家達の国立公園風景画も鑑賞することができました。

金谷ホテルは、イザベラ・バードが滞在し著書「日本奥地紀行」にも登場する現存する日本最古の西洋式ホテルで有形登録文化財になっています。格天井に花鳥風月が描かれたゲストルームで、各々ビーフシチュー・ニジマス金谷風のランチに舌鼓を打ち、ホテルのおもてなしに、庭の紅葉に、大満足。

そして鹿沼市黒川のほとり、明治洋館風の時計台のある川上澄生美術館へ。澄生は絵と詩を多色刷りで表し「木版画家の詩人」と言われ、代表作「初夏の風」は棟方志功が版画を志すきっかけとなったとか。「畦地梅太郎と川上澄生」が企画されており、山の版画家畦地梅太郎の人間愛に満ちた世界も鑑賞することができました。

栃木の美術と食事を楽しんだ帰りのバスの中は、「家族を連れて来よう」「目もお腹も心も幸せ」「楽しかった」等の声が溢れていました。

定員でお申込みいただいても参加できなかった方、ごめんなさい!

(研修旅行担当 辺見美江子)

*アート・チャリティー・バザー

2013年11月17日

第5回アート・チャリティー・バザーを開催しました。

実績を重ねた(5回)バザーは、折から1週間前に企画された「友の会」日光・金谷ホテルの昼食を含む美術探訪の参加者に周知徹底され、さらには県立美術館特別展「ホセ・マリア・シシリア」の入館者の参集もあり、アート関連の図録、工芸品など早々に買い上げられました。

また併設された骨董市コーナーも、茶道具を中心とした抹茶碗、一輪挿、さらには江戸時代の生活雑器として活用された刺身皿、ナマス皿、そば猪口など格安な価格ゆえに気軽に購入されました。

大変なご協力を頂いた美術館長様をはじめ、学芸員の方々、友の会会員の皆様へ感謝する次第です。

(バザー担当 齋藤格)



*美術館鑑賞講座

2013年11月30日

宮武学芸員による「ホセ・マリア・シシリア 福島・冬の花」ギャラリートークと講義室にての茶話会を開催しました。

*友の会創立10周年記念講演会

2013年12月14日

原田マハさんによる講演会「ルソーって誰のことだろう。『楽園のカンヴァス』とモダン・アート再考」が開催されました。定員250席が満席になり、講演後サイン会を開催しました。

*美術映画鑑賞会

2014年1月13日

「ルノアール」〈映画＋トーク＋シャンソン〉フォーラム福島にて映画鑑賞後、荒木学芸員のルノアール解説、シャンソン歌手 貝山幸子さんによるシャンソン、阿部支配人の映画製作解説を開催しました。

1/13〈月・祝〉午後二時より美術映画観賞会を実施しました。映画を切り口に画家や作家についてもっと踏み込んだ見識や知見を得ようというこの試みは「レオナルド・ダ・ヴィンチ展 IN シアター」以来の一年半ぶりの開催。

三時間の長丁場の企画にもかかわらず、当日は予想以上の111名が来られ、立ち見状態。お断りせざるを得なかった方も数十名に上り、申し訳ありませんでした。原発被災から三年近い時を過ごし、ようやく一人ひとりの市民にも無心に藝術を愉しもうという心のゆとりが芽生えてきていることを実感しました。

映画は、巨匠オーギュスト・ルノワールの晩年に現れた奔放な娘デデがモデルとして老画家の家に入り出していたころ、戦争で負傷戻ってきたルノワールの息子ジャンをも魅了するようになり、そのことで父子関係に微妙な確執が生まれる数ヶ月を描きます。上映後に、学芸員の荒木康子さんとシャンソン歌手の貝山幸子さんが登壇。荒木さんはルノワール晩年期の今日における一般的な画業の評価について、また県立美術館所蔵の「帽子を被る女」のモデルが確実にデデだろうという裏話などを。フランス生活経験の豊富な貝山さんはルーブルやオルセーをはじめとする美術館がいかにパリ市民に溶け込んだ存在であるかを話していただきました。親睦感あふれる、楽しいひとときを提供できたのであれば、嬉しいです。

(映画鑑賞担当 阿部泰宏)



*第2回実技講座

2014年1月26日

久慈学芸員の指導により「軽量ねんどで作る彫刻」を開催しました。

久慈伸一専門学芸員による指導を受け開催しました。参加者は8名。超軽量粘土という新しい素材を使い、これまでの彫塑の概念からもっと自由に立体を作ることができました。



*美術鑑賞講座

2014年3月15日

河野保雄コレクション展の全貌「近代洋画にみる夢」展 堀学芸員によるギャラリートークと茶話会を開催しました。

*ミュージアム・コンサート

2014年3月23日 美術館エントランスホール

共催：福島県立美術館、福島県立美術館協力会
「瀬崎明日香 (violin) & 篠崎和子 (harp) Special Duo Concert」を開催し、250名を超えるお客様が集まりました。

春恒例のミュージアム・コンサート、今年はヴァイオリンの瀬崎明日香さんとハープの篠崎和子さんをお迎えしました。お二人とも世界的にご活躍の演奏家で、大変忙しいスケジュールを割いて福島復興支援の思いも込めて演奏をお引き受けいただきました。

プログラムは、グノー＝バッハ「アヴェ・マリア」やマスネ「タイスの瞑想曲」などのデュオ演奏、バッハ「シャコンヌ」のヴァイオリンソロ演奏、黛敏郎「ROKUDAN」のハープソロ演奏などです。ミュージアム・コンサートは美術館、美術館協力会、友の会が共催して美術と音楽を一緒に楽しもうという賢沢な催しですが、会員はじめ多くのお客様がお出でになり、美術館の吹き抜けのエントランスホールに響き渡るヴァイオリンとハープの美しい音楽とお二人の楽しいお話しを楽しんでおられました。

(ミュージアム・コンサート担当 貝沼幹夫)

